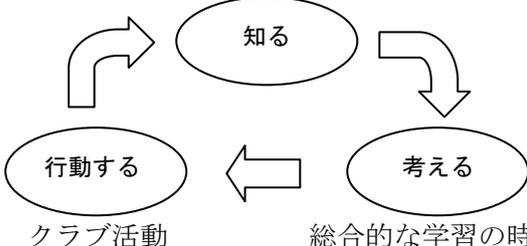


【グローバル教育取り組み部門：応募様式】

※作品は応募様式3頁以内とします。応募様式以外に参考資料を添付することが可能です。(A4、様式任意)。
 応募様式、参考資料あわせて6頁以内とします。

<p>タイトル</p>	<p>国際理解教育における3つの種 ～大きな花を咲かせるために～</p>
<p>実践者／団体名</p>	<p>大塚 圭</p>
<p>実施日・期間</p>	<p>2012年4月～現在</p>
<p>主な実施場所</p>	<p>中央大学杉並高等学校</p>
<p>参加者及び人数</p>	<p>評論講読、高校生のための国際協力入門、国際ボランティア同好会 計74名</p>
<p>目標・ねらい</p>	<p>〈目標〉 現行の教育課程における教科指導や総合的な学習の時間、クラブ活動を中心に据えた国際理解教育の実践</p> <p>〈ねらい〉 一般の学校現場における国際理解教育の実践は、時間を確保することが難しくかったり、英語学習や異文化体験に終始してしまったり、必ずしも浸透していないのが現状である。一方、スーパーグローバルハイスクール(SGH)の認定校やグローバル人材を育成すべく特別なコースを設置する学校もある。しかし、すべての学校で国際理解教育を中心に据えた教育課程を実施することは現実的に困難である。だからこそ、現行の教育課程において、生徒たちが地球規模の諸課題を知り、考え、行動することのできる場を提供していくことが大切であると考えます。</p>
<p>具体的な取り組み内容及び工夫・配慮した点等</p>  <p>フェアトレードについて英語でプレゼンテーション</p>	<p>〈概要〉 教科指導や総合的な学習の時間、クラブ活動という一つひとつは小さな種のような教育活動を生徒たちが「知る→考える→行動する」ように組み合わせることによって、国際理解教育の大きな花を咲かせてくれることを期待している。</p> <p>【国際理解教育の3つの種】</p> <p>教科指導 (英語)</p>  <p>知る (教科指導) → 考える (総合的な学習の時間) → 行動する (クラブ活動)</p> <p>〈具体的な取り組み内容〉</p> <p>1. 知る：教科指導における実践 (英語) 教科指導 (英語) では、生徒たちが地球規模の諸課題を知ることのできる英文の題材を選択した。難民や人口など生徒にとって背景知識が必要な題材は、参加型のアクティビティを活用して、英文理解の助けとした。また、英語でのプレゼンテーションなどの言語活動を充実させるように留意した。(資料1)</p> <p>[主な題材]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ The Japan Times ST “Fears of Western strike on Syria spread throughout Middle East” (難民) ・ The World Ahead “Too Many People? Or Too Few?” (人口) ・ Fact Files Chocolate “The darker side of chocolate” (フェアトレード) ・ The Real World Today “Use of Child Labor” (児童労働) ・ Pathways to Knowledge “What is Virtual Water?” (水) <p>2. 考える：総合的な学習の時間における実践 (高校生のための国際協力入門)</p>

資料1 知る：教科指導における実践（英語）

題材：Too Many People? Or Too Few?（世界の人口分布における偏りを考える）

1. 英文の題材を使用して、世界の人口問題について理解する

英文で地球規模の諸課題を知ることが目的としているので、精読ではなく、速読を促し、本文を要約する。

要約例

人口が増加する開発途上国と人口が減少している先進国の現状は、人口分布の偏りを生じさせている。人口分布の偏りを解消するためには、それぞれの現状に見合った解決策が必要である。

英文を一部抜粋

By contrast with China, today more and more countries are worried about underpopulation, not overpopulation, and Japan is one of them. Statistics show that Japan's fertility rate is down around 1.5; if this trend continues, the country's population will soon level off and then begin to decrease. [paragraph continues]

2. 参加型アクティビティで世界の人口分布を把握する

- ① 世界の大陸の人口比をもとにペットボトルキャップを人口比と同じように世界地図の上に並べる。（参考：ワークショップ版 世界がもし100人の村だったら）
- ② 世界の人口密度の高い国と低い国での問題点をブレインストーミングする。
- ③ 人口分布の偏りを解消するために必要なことを考える。



キャップを重ねることによって立体的に人口分布を把握



人口密度の高い国と低い国の問題点を考える

3. プレゼンテーション

世界の人口分布における偏りを解決するための方策を英語でプレゼンテーションする。

生徒の原稿を一部抜粋

Is there any way to solve the problem of the population distribution?
I think that Asian people should move to a foreign country because the world population is too concentrated in Asia. I will propose to immigrate to Australia, where population density is low. Although Australia is almost completely occupied by desert, the latest techniques will enable us to live there. [paragraph continues]

（生徒の感想）

「児童労働」「フェアトレード」「人口問題」等多岐にわたる英文を読み、その内容をまとめ、英語で発表や討論をした。そのため、英語の力がついたらばかりでなく、開発途上国が抱える問題や、日本と諸外国の相違点などの知識が身につき、また関心を持つようになった。大学でも開発途上国の経済について学びたいと考えている。

資料2 考える：総合的な学習の時間における実践（高校生のための国際協力入門）

題材：ブータン（GNH政策を支援する）

1時間目 ブータンのイメージを膨らませ、国家政策である国民総幸福量(GNH)を理解する

1. フォトランゲージでブータンのイメージを膨らませる。

首都ティンブーの様子

ブータンの農村風景

ブータンの人々の生活

学校に通うこどもたち

バザールの様子



2. 国内総生産(GDP)、人間開発指数(HDI)、国民総幸福量(GNH)を比較する。

3. GNHの9つの指標について具体例を考え、GNH 相関図を完成させる。

これは、何のランキングでしょうか？日本とブータンを比較してみましょう。

国内総生産(GDP)		人間開発指数(HDI)		国民総幸福量(GNH)	
順位	国	順位	国	順位	国
1	アメリカ	1	ノルウェー	1	デンマーク
2	中国	2	オーストラリア	2	スイス
3	日本	3	オランダ	3	オーストラリア
4	ドイツ	3	アメリカ	4	アイスランド
5	フランス	5	ニュージーランド	5	バハマ
10	インド	12	日本	8	ブータン
26	台湾	26	シンガポール	15	オランダ
50	ルーマニア	50	ルーマニア	23	アメリカ
88	エチオピア	88	コロンビア	82	中国
121	カンボジア	101	中国	90	日本
166	ブータン	140	ブータン	125	インド
184	キリバス	186	ニジェール	177	ジンバブエ
185	ツバル	187	コンゴ	178	ブルンジ

経済規模 平均寿命、教育、国民所得 精神的な豊かさ



2時間目 ブータンで実施されているJICAプロジェクトを参考に具体的な支援策を考える

1. 実際にブータンで実施されている支援プロジェクトをクイズ形式で紹介する。



地方電化促進プロジェクト

コンポストプラント

メディア支援

体育教員派遣

職業訓練校の質的強化プロジェクト

2. 提示された支援プロジェクトについて優先順位を決める。(ランキング)

3. 最も重要なプロジェクトについて具体的な支援策を考え、ワークシートに記入する。

3時間目 支援策について自由な対話をし、より多くの意見を共有する

1. 課題として取り組んだ支援策をワールドカフェ形式で共有する。 ワークシート

2. 最も印象に残った支援策を投票で決める。

(生徒の感想)

支援策は、一時的な支援ではなく、その支援が終了した後でも、ブータンの人々だけで自立した生活ができるような政策を考えるようにしました。職業訓練校の設置や地方を発達させることで都市の過密化を分散させようと考え、自分が本当に支援をしているような気持ちで取り組むことができました。

グループメンバー

～ブータンを支援しよう～

職業訓練校の質的強化

現状
ブータンでは、急速な人口増加が続いており、若年層の増加による雇用問題は深刻化している。ブータン全体の失業率は3%強とされているが、これを都市部の若年層に限ると10%を超える状況にある。

考えられる原因
ブータンでは就職できる職種が限られていると思われる。また、若年層においては職業能力不足が原因であると考えられる。

プロジェクト名
プロジェクトPW

考えられる政策
職業体験を含む講演会を実施し、同時に教育者の育成も行う。
また、中学、高校、大学で職業教育も行う。

GNHの9つの指標との関係
GNHの指標
生活水準・教育・時間の使い方・精神的安定

GNHの指標との関係
講演会、中学、高校、大学などの教育の場をかりて、職業能力を高めることにより、様々な職種への就職が可能となり、生活水準が向上すると考えられる。個人においては、職を得ることにより、精神的安定が得られ、また有効的な時間の使い方を学べると考えられるため、ブータン政府の国家政策を支援することができる。

資料3 行動する：クラブ活動における実践（国際ボランティア同好会）

活動目標：日本の高校生が途上国の貧困や格差などを地球規模の問題として捉え、国際社会に貢献していこうとする態度を育成する。

主な活動内容

1. フィリピン支援

スラムで暮らす子どもたちが裸足で生活をしている現状を考え、校内で使用しなくなった靴やサンダルを集め、現地 NGO 団体ハッピーキッズを通して、子どもたちに配布。



生徒に呼びかけるためのポスター



校内で集めた靴を洗う生徒たち



靴を受けとるスラム地区の子どもたち

2. 文化祭においてフェアトレード商品の販売

販売までの流れ

- ①フェアトレード商品を販売している店舗を訪問したり、ワークショップに参加したりして背景知識を学習。（協力団体：特定非営利活動法人 オックスファムジャパン）
- ②グローバルフェスタなどの国際協力イベントで実際にフェアトレードコーヒーの販売を体験。（協力団体：特定非営利活動法人 パルシック）
- ③フェアトレードについて多くの人に知ってもらうために、文化祭でフェアトレードコーヒーや紅茶、雑貨を販売。



フェアトレードについて学ぶ生徒たち



フェアトレードコーヒーの販売を体験



文化祭での展示および販売

3. カンボジアのブランコ建設支援

文化祭でのフェアトレード商品の売り上げおよび校内での募金を JHP・学校をつくる会の活動の一つであるブランコ建設に寄付。



校内での募金活動



JHP のボランティアの人々がブランコを建設



ブランコで遊ぶ子どもたち

(生徒の感想)

- ・僕たちには想像もできない生活を送っている人がたくさんいる。そのことを忘れずに、まずは身近でできることを探したい。大学でもボランティアサークルに入りたい。
- ・学ぶことは、行動によって得られるものだと思った。これからは、もっと自発的に行動して、真の「学び」というものを学んでいきたい。



CHUSUGI
CHUO UNIV. BAKANAHARA HS. SCHOOL

資料4 PBL版 高校生のための国際協力入門

テーマ

タイの経済発展とそれに伴う社会問題を考える



協力団体：国際協力機構(JICA)



協力企業：株式会社ゼンショーホールディングス

プログラムの構成

4/26 校内プログラム	5/10 JICA プログラム	5/17 校内プログラム	5/24 校内プログラム
<p>テーマ：国際協力について考える</p> <p>国際協力は、一方的な支援ではなく日本人の暮らしを支えるためにも必要なことを理解する。</p>	<p>JICA 地球ひろば 訪問</p> <p>ワークショップや体験型展示を通して、貧困や保健、教育、環境、難民などの地球規模の諸課題を学ぶ。</p>	<p>テーマ：社会起業家とは？</p> <p>社会の問題を解決するために、事業を起こし、世の中に新しいしくみを作ることを考える。</p>	<p>シントン公使 講演会</p> <p>在京タイ大使館の方から、タイに関する情報を収集し、経済発展とそれに伴う社会問題を認識する。</p>
5/31 ゼンショープログラム	6/14 ゼンショープログラム	6/28 JICA プログラム	7/12 校内プログラム
<p>テーマ：企業の国際展開について</p> <p>ゼンショーが製品や工場をタイで展開する際に留意するべき点やゼンショーの取り組むフェアトレードのしくみを知る。</p>	<p>テーマ：課題解決型ワークショップ</p> <p>タイむけの製品を開発するうえで諸課題を解決するワークショップを体験する。</p>	<p>JICA 地球ひろば 訪問</p> <p>JICA タイ事務所とテレビ会議を通して、タイの文化や生活、社会事情を学ぶとともに開発課題やODA事業を知る。</p>	<p>テーマ：前期のまとめ</p> <p>プロジェクトワークの意義を理解するとともに、タイでの社会問題に留意しつつ、その解決に資するような社会事業プランを模索する。</p>
7/24～8/2 JICA プログラム	9/6 校内プログラム	9/12 中央大学プログラム	9/13 9/27 校内プログラム
<p>海外開発現場研修（10日間）</p> <p>ODA 事業や企業の視察、農村部での生活体験を通して、タイの社会問題に関する情報を収集・分析し、JICA タイ事務所で発表する。</p>	<p>テーマ：タイの社会問題を考える</p> <p>タイにて収集した情報を分析し、タイで継続可能な事業を展開するうえでの社会問題を解決する糸口をつかむ。</p>	<p>渡辺教授 特別講義</p> <p>PBL(Project Based Learning)を実践するために必要なステップを理解するとともに、プロジェクトワークの流れを確認する。</p>	<p>テーマ：問題の探索と目標の設定</p> <p>タイにおける社会問題を特定するとともに、目標を設定する。</p> <p>テーマ：情報収集と課題発見</p> <p>目標を達成すべく課題を発見する。</p>
10/18 11/1 校内プログラム	11/8 校内プログラム	11/22,29 12/13 校内プログラム	1/10 1/17 校内プログラム
<p>テーマ：課題の解決策の考案</p> <p>タイにおける社会問題について、望ましい状態の創出に向けて、どのように解決するのか考案する。</p>	<p>中間報告会</p> <p>プロジェクトワークの進捗状況をJICA、ゼンショー、中央大学の関係者の方に発表して、解決策についての改善点を共有する。</p>	<p>テーマ：まとめ（成果物の作成）</p> <p>タイにおける社会問題を解決するための継続可能な事業のしくみを報告書にまとめる。現地の人も読めるように英語に翻訳する。</p>	<p>プレゼンテーション</p> <p>JICA、ゼンショー、中央大学、杉並高等学校などの報告会で成果をプレゼンテーションする。</p>

*社会問題とは、貧困、教育、保健、社会的弱者支援、高齢化、洪水対策などの課題を想定